

毎年12月3日は「カレンダーの日」。1988年にカレンダー業界団体が制定し、2011年に日本記念日協会へ正式登録された記念日です。由来は、1872年（明治5年）に旧来の太陰太陽暦を廃止し、翌日（旧暦12月3日）を新暦の明治6年1月1日とする太陽暦（グレゴリオ暦）への改暦が実施されたことにあります。

江戸時代まで使われていた太陰太陽暦は、月の満ち欠けを基準とするため1年がおよそ354日となり、季節とのズレが毎年積み重なるという特徴がありました。ズレを調整するために2~3年に一度「閏月（うるうづき）」を挿入していましたが、計算や運用が複雑で広く国際標準となっていた太陽暦とのズレも課題となっていました。

そのため明治政府は太陽の動きを基準とする太陽暦を採用しました。これによって日付と季節の関係が安定し、外国との暦の違いもほとんど解消されました。現在も明治神宮では12月3日に「新暦奉告参拝」が行われ、翌年の暦原本が奉告されます。新しい年を迎えるこの時期、暦に込められた歴史に思いを向けてみてはいかがでしょうか。

## ▼ INDEX ▼

- 
- |          |               |
|----------|---------------|
| 【技術関連情報】 | ・ E L V 司令    |
| 【関連製品紹介】 | ・ 脱炭素関連レーザー機器 |
| 【お知らせ】   | ・ 年末年始休業日のご案内 |
- 

### ■技術関連情報■

#### E L V 司令

E L V 司令 (End-of-Life Vehicles Directive) は、2000年にEUが制定した環境規制で、使用済み自動車の廃棄・リサイクルに関するルールを定めたものです。

目的は、廃車に含まれる有害物質の環境への影響を最小限に抑え、資源の循環利用を促進することにあります。具体的には、鉛、水銀、カドミウム、六価クロムといった有害重金属の使用を原則禁止し、車両の設計段階からリサイクル性を高めることが求められています。この指令は当初、自動車業界を対象としていましたが、近年の改正により、製品設計・材料選定・サプライチェーン管理にまで踏み込んだ内容へと進化しています。

2023年には「E L V 規則案」として再構成され、再生プラスチックの使用義務や車両循環パスポートの導入など、より広範な資源循環政策と統合されました。

さらに、E L V 司令はRoHS指令やREACH規則と連動しており、EUの環境規制全体が「製品ライフサイクル全体の透明性と持続可能性」を重視する方向へとシフトしています。

環境負荷に対しては従来から色々な規制で有害物質が取り上げられていますが、この規制では材料として有害でなくても製造時の環境負荷や廃棄・リサイクルの問題から2025年1月の修正案で炭素繊維が追加されて話題となりました。

炭素繊維や炭素繊維強化プラスチック (CFRP) は高性能で航空宇宙、自動車、風力発電など色々な分野で使用されているため騒動となりましたが取り下げの方向で落ち着きつつあります。

製品開発、製造メーカーがこの流れに対応することで、EU市場での競争力を高めるだけでなく、企業としての環境責任を果たす姿勢を示すことにもつながります。

今後は、製品設計段階から「非含有材料の選定」「トレーサビリティの確保」「再生材の活用」などが求められる時代になり、従来の性能重視から高機能材料を多用するような設計の見直しも必要になってきます。

当社では全ての製品をRoHS 2対応で設計、製造しておりますが、ご不明な点があればお問い合わせください。

みずほリサーチ「ELV規則改正の最新動向」

[https://division.nagase.co.jp/plaplat/sustainable\\_solution/regulation/mizuh04/](https://division.nagase.co.jp/plaplat/sustainable_solution/regulation/mizuh04/)

三井化学「ELV規則案とは？」

<https://jp.mitsuichemicals.com/jp/sustainability/beplayer-replayer/soso/archive/column/common/2025-0327-02>

国際環境機材研究所 EUにおける炭素繊維の規制の現状と背景

[https://ieei.or.jp/2025/05/karaki\\_20250528/](https://ieei.or.jp/2025/05/karaki_20250528/)

(藤田寛也)

---

#### ■関連製品情報■

##### 脱炭素関連レーザー機器

本文でも紹介の様に再生可能エネルギー機器の需要が増しているので製造に関わるレーザー機器や、稼働している機器のメンテなどでレーザーセンサが使用されています。

また製造では従来の工法からレーザーに置き換えることによってCO2の低減が図れますし、レーザー自体が高効率の為に照明などによっても脱炭素に貢献できます。

更に現在注目されているレーザー核融合が実用化されれば、発電に関して大幅なCO2の低減が見込まれます。

こんなことがレーザーでできないか、これをレーザーで測れないかなどございましたらお問い合わせください。

受託開発、OEM供給

<https://www.alt.co.jp/entrusted-development>

---

#### ■お知らせ■

##### 年末年始休業日のご案内

弊社では年末年始を下記の通り休業させて頂きたく、  
ご案内申し上げます。皆様方には何かとご迷惑をおかけ致しますが、  
何卒ご理解、ご容赦の程、お願申し上げます。

令和7年12月27日（土）～令和8年1月4日（日）

営業開始日 令和8年1月5日（月）